

2022年1月9日（日）主日朝礼拝説教

『新しい命に生きる洗礼』井上隆晶牧師
ローマ書6章1～5節、マタイ福音書3章10～17節

①【キリストの謙遜さ】

イエス様が公に皆の前に姿を現したのは洗礼の時です。そこで今日のお祭りのことを「公現祭」と言います。曆的には6日に当たります。預言者ヨハネは悔い改めの「**大洗礼運動**」をしました。洗礼は異教徒がユダヤ教に改宗する時に行われ、生まれながらのユダヤ人は洗礼は受けませんでした。しかしヨハネはユダヤ人も洗礼を受けなければならないと悔い改めを宣言します。民衆は皆メシアを待ち望んでいて、もしかしたらヨハネがメシアではないかと思っていました。彼の人気は絶大で、全国から人々はヨハネのところに来て罪を告白し、ヨルダン川で彼から洗礼を受けたのです。その大群衆の中にナザレの田舎から来た青年イエス様がいました。イエス様が洗礼を受けたのはおよそ30歳の時でした（ルカ3：23）。イエス様は罪人たちの列に並んで順番を待ち、罪人と同じようにヨハネの手から洗礼を受けようとされます。ヨハネは自分の前に現れたイエス様を見て驚き、洗礼を授けるのを辞退しようとし、**「私こそ、あなたから洗礼を受けるべきなのに、あなたが、私のところへ来られたのですか」**（マタイ3：14）。古代の祈禱文はそんなヨハネの驚きを神学的に表現しています。

・「先駆者ヨハネはおののいていました。どうして燭台（ヨハネ）がともし火（イエス）を照らすことができましょう。どうして僕が主人に手を按せられましょう。世界の罪を担われる救世主よ、わたしと水を聖めてください。」

考えてみてください。罪に汚れた者が、聖なる神を洗うのです。ヨハネは「**私はその方の履物のひもを解く値打ちもない**」（ルカ3：16）と言っています。主人の履物のひもを解くのは奴隷の仕事でした。自分は奴隷以下の者であり、主に触れることもできないと言ったのです。自分がどれだけ罪深いか、またキリストがどれだけ清く尊い方なのかを彼は良く知っています。あなたはこのヨハネの目を持っていますか。キリストをどのように見、キリストにどのように近づいていますか。自分が分からず、キリストが分からない、この大きな無知をお赦し下さい。洗礼を授けるのを辞退しようとしたヨハネに対してイエス様はこう言われました。「**今は、止めないでほしい。正しいことをすべて行うのは、われわれにふさわしいことです。**」（マタイ3：15）「正しいこと」というのは洗礼を受けることです。主が「われわれにふさわしいことです」と言われた言葉に注目して下さい。イエス様は罪がない神の子です。それなのに「われわれ」という言葉をもって、罪人の仲間になって下さったということなのです。罪のないイエス様がなぜ洗礼を受けられたのでしょうか。一つ目の理由は、キリストの謙虚さに真似させるためです。イエス様の物語を見ると、どんどん下へと降って来られるのが分かります。降誕祭は神が地に降って人となった祝いですが、洗礼祭は神がさらに罪人にまで降っ

て下さったことを祝う祭りです。パウロはこうっています。「キリストは神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。」(フィリピ 2:6~8) 人間は高ぶり、自分を上へ引き上げようとします。また自分と他人に線引きをしようとします。しかし神は下へ降られます。そして罪人の中に入り友になろうとします。この神の子の謙遜さは驚くべきものです。あなたはどちらの道を歩いていますか。キリストは私の後に続け、と言われ率先して洗礼を受けられたのです。私たちも子どものように素直になり、謙虚になり、キリストの後に続かなければなりません。

②【聖三者の証し】

二つ目の理由はイエス様が何者であるかを証しするためです。イエス様が洗礼を受けた時、天が開け、聖霊がイエス様の上に降り、天から父なる神様の声がしました。「これは私の愛する子、私の心に適う者」(3:17) 聖霊がイエス様の上に降ったのは、イエス様が自分と同じ神であることを教えるためであり、鳩の姿で現れたのはノアの洪水を思い出させるためです。その昔ノアの箱舟の時、鳩はノアのもとにオリーブの葉を運び、洪水の終わりを告げました。今、聖霊はイエス様の上に降り、イエス様こそ世界の難破を救う新しいノアの箱舟であることを証したのです。ペトロもこのことを知っていて「この(洪水の)水で前もって現わされた洗礼は」(Iペトロ3:21)と書いて、キリストこそ神の国への箱舟であると言っています。こうして父なる神様と聖霊様はこの日、初めて共に現れてイエス様が誰であるのかを証しされたのです。神の証言ほど確かなものはありません。イエス様は神の国へ私たちを連れて行ってくれる新しい箱舟です。彼の中に入った者は裁きの中を通過して救われます。

③【キリストは新しい洗礼を用意された】

三つ目の理由は、洗礼という聖礼典(サクラメント)を立てるためです。ヨハネは自分がしている「水による洗礼」(3:11)とは違う、新しい「聖霊と火の洗礼」(3:11)が始まることを預言しました。洗礼も過越祭のパン裂きも、もともとユダヤ教の儀式でしたが、イエス様はそれをご自分が体験されることにより新しいものに変えられました。イエス様が洗礼を受けた時、天から聖霊が降りました。イエス様は御自分が洗礼を受けることで、ヨハネの古い洗礼を終わらせ、聖霊を降す新しい洗礼の秘跡を立てました。神が触れたものはすべて新しくなるからです。パウロはこう伝えています。「私たちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それはキリストが…死者の中から復活させられたように、私たちも新しい命に生きるためなのです。」(ローマ6:4) 悔い改めの儀式だった洗礼が、水によって古い人を葬り去り、同時に聖霊によって新しい人を創造する新生の儀式へと変えられたのです。洗礼盤の中で、キリストに起

こった死と復活が私たち人間に転嫁されるのです。 三度水を頭にかけることは三日間の葬りを表し、水から上がることは復活を象っているのです。

私は今から 40 年前に洗礼を受けました。多くの罪を犯した私は自分が清くなりたくて洗礼を受けました。涙が止まりませんでした。パウロは「**キリスト・イエスに結ばれるために洗礼を受けた**」(ローマ 6:3) と言っています。洗礼を受けるのは、キリストと一体になるためです。接ぎ木されるといってもいいでしょう。私とキリストは一体になったのです。あの日以来、イエス様は私の中に住んでおられ、私を生かし、私を通して働いておられます。この一体感が人を強くするのです。

●先日、一致祈祷会の打ち合わせでカトリック玉造大聖堂に行きました。聖公会、ルーテル、カトリック、教団からの代表の 4 名の先生たちが集まりました。近況報告をし、コロナの話題になりました。皆の教会では賛美はどうしているのか、という話題の時、聖公会の U 司祭は「私の教会では讚美歌は全部歌います。2 番だけなど考えられない。賛美の中にはウィルスはいない！人の悪口の中にウィルスはある。」と断言され、みんなで大笑いしました。でも聖餐は聖公会もカトリックもパンだけでぶどう酒を飲まないんです。ぶどう酒の中にもウィルスはないのにも思いました。これは極端な例ですが、妙に納得しました。祈っている人は強いのです。恐れが無いのです。

正月から疲れており、創造意欲が湧きませんでした。でも金曜日に朝の祈祷をすると、不思議とつらつらと言葉が溢れて出てくるのです。心が満たされるから溢れて外に出るくるのです。キリストにつながると人の心も魂も生き返ります。

私たちが選ばれたのは理由があるのです。 私たちがステンドグラスのようになって神の光、キリストの光を通す者となり、この世の人に神を写すためなのです。ステンドグラスが煤で真っ黒なら光を通しません。 私たちの心の中が「自分のわがまま」でいっぱいなら、キリストという光を通さないのです。「自分」というものを一生かけて捨てていかなければなりません。それが「靈的に死ぬ」ということです。そして自分が無くなれば、神が満ちてきます。それが「新しい命に生きる」ということです。

私たちは新しい者となったのです。古い私は洗礼盤の中で死に、新しい私が生まれたのです。神が私を創造してくださったからです。新しい者は、新しい生き方をしなければなりません。古い生活に帰れば時間も命も一切が無駄になります。何も実を結びません。キリストに向き、彼に生きれば私たちは豊かな実を結ぶことが出来ます。4 世紀のヨハンネス・クリュソストモスは聖書を紐解かない生活は「サタンにそそのかされた生き方に等しい」と語っています。諦めないで、み言葉を繰り返し読み続け、同じ祈りを繰り返し、聖餐を食べ続けることは最も効果的です。私たちの中には本当にキリストがおられるのです。どうかそのキリストの形が大きく育ちますように祈ります。